

小径をゆけば

校長コラム

No.23

カセットテープ

前号で情報教育のことを書きましたが、機器の進化はすごいですよ。小学生の頃、カセットテープレコーダーが家にやって来ました。使用目的が何だったのかはつきりしませんが、ラジオ番組や自分の声を録音できることに驚きました。自分の声を聞くと、別の人の声のように聞こえました。本当に自分の声なのか、家族に確認したら、自分の声に間違いないとの返事になかなか合点がいきませんでした。カセットテープの時代はしばらく続きました。そのうち、ダブルカセットテープレコーダーなるものが登場して、ダビングが簡単にできるようになりました。カセットテープそのものも高級なものや廉価なものがあり、多くのグレードがありました。高級のもので録音した曲は、何となく深みのある音質に感じました。本当はよく分かっていないのに…。学生の頃には、貯めたお金でコンポーステレオを買いました。チューナー、デッキ、スピーカーなどが独立していて、好きな歌手のレコードを買っては悦に入っていました。本当は音質の違いは分かっていたのに…。レコードをカセットに録音する際は、ノイズが入らないようにちょっとした工夫が必要でした。まず、カセットテープを録

音できる茶色の部分まで巻きます。次に、一時停止ボタンを押してから再生ボタンと録音ボタンを同時に押します。これで準備完了です。レコードに針を落として、曲が鳴り始める直前に一時停止ボタンを解除。これで、ノイズを入れずに録音ができます。止めるときも必ず一時停止ボタンを押します。自分の中では高度なテクニックであり、こだわりでした。

～ 続く ～